

## 第6学年国語科書写（毛筆）学習指導案



- 1 単元名 文字の組み立て方と穂先の動きを確かめよう（光村図書P18～P23）
- 2 単元について
  - (1) 児童の実態  
児童は、1学期に、穂先の動きと点画のつながりの学習として「うぐいす」、筆順と点画のつながりの学習として「友情」の文字に取り組んできた。準備から片付けまでの単位時間の流れが習慣化してきた。その時間の基準に注意しながら学習に取り組んでいる児童がいる一方で、整った文字を書くことが苦手であったり活動に時間がかかったりという理由で書写の授業を好まない児童もいることも事実である。  
1学期に行った意識調査では、「書写の時間が好き」と答えた児童は半数である。その理由は、「楽しいから」「上手に書けると嬉しいから」「だんだんうまく書けるようになるから」などである。
  - (2) 教材について  
学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の書写に関する事項は、「ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと」「イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと」「ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと」である。  
本単元では、「によう」と「3つの部分」の組み立て方を扱う。にようの組み立て方の学習については、にようの右払いを長く書き、にようの上部が収まるように組み立てるとする原理・原則を理解する。3つの部分からなる漢字は、左右・上下の文字の組み立て方を応用させた漢字である。3つの部分が互いに譲り合っていることや、それぞれの位置関係や大きさを理解させ、応用を図る。  
そして、組み立て方の原理・原則を理解した上で毛筆で大きく書き、穂先の動きを確認し、筆圧やリズムを習得することは、中学校での書写の学習の基礎・基本となる。
  - (3) 指導にあたって  
本単元では、漢字の特徴と穂先の動きを理解して文字を書くことを学習する。学習を進める上で、次のことに留意しながら、指導にあたっていく。
    - ・毛筆学習においても、他教科と同様に、課題意識をもち、学習を進めていくことを大切にしていく。
    - ・視聴覚機器を効果的に使いながら、筆の動きを視覚的にとらえることができるようにする。
    - ・練習・批評の場面では、練習用紙を段階的に活用することで、児童ができる喜びを味わうことができるようにする。
- 3 単元の目標
  - 【毛筆】◎穂先の動きを理解して書くことができる。  
◎にようとにようの上の部分の位置や3つの部分で組み立てられた漢字の特徴を理解することができる。
  - 【硬筆】◎組み立て方の特徴に気をつけて、字形を整えて書くことができる。  
◎にようや3つの部分で組み立てられている漢字の特徴を理解することができる。
- 4 単元の評価規準
  - 【関心・意欲・態度】・漢字の組み立て方の特徴を意欲的に確かめようとしている。
  - 【知識・理解】
    - ・にようのある文字では、にようの右払いが上の部分より右に出るように書くことを理解している。また、3つの部分で組み立てられた漢字では、横幅を狭くしたり高さを変えたりして文字を整えていることを理解している。
    - ・穂先の動きを理解している。
    - ・穂先の動きに気をつけて文字を書いている。
  - 【技能】
- 5 単元の指導計画（7時間）
  - (1) にようとにようの上の部分の組み立て方と穂先の動きを理解して毛筆で「道」を書く。…1時間
  - (2) にようとにようの上の部分の位置と穂先の動きに気をつけて「道」のまとめ書きをし、硬筆で確かめる。…2時間
  - (3) 3つの部分で組み立てられた漢字の特徴と穂先の動きを理解して毛筆で「街」を書く。…1時間（本時）
  - (4) 3つの部分で組み立てられた漢字の特徴と穂先の動きに気をつけて「街」のまとめ書きをし、硬筆で確かめる。…2時間
  - (5) 部分の組み立て方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書く。…1時間

6 本時の指導（4 / 7）

- (1) 目標  
3つの部分で組み立てられた漢字の特徴と穂先の動きを理解して書くことができる。
- (2) 評価規準  
【知識・理解】 横幅を狭くすることで文字が整えて書くことができることを理解している。また、右払いの書き方を理解している。  
【技能】 漢字の特徴や穂先の動きに気をつけて「街」を書くことができる。
- (3) 研究に関わって  
本時は、「気づく」場の工夫に重点を置いた指導を行う。  
・視聴覚機器や水書板を用いて、視覚的に捉えることができるようにさせたい。
- (4) 展開

段階	学習活動	教師の支援	準備・評価(◎)
気づく 15	<p>1 教材の確認をする。 ・「働」の特徴を話し合う。 ・「街」を書くことを確認する。</p> <p>2 試書をする。 ・「街」を試書する。</p> <p>3 本時の学習課題を把握する。 ・試書と教科書を比べて自分の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">3つの部分の組み立て方に気をつけて書こう。</div> <p>4 基準を理解する。 〈基準〉 ・3つの部分の横はばをせまく ・右上はらいの筆使いはだんだん力を弱めながら</p>	<p>・横画が右上払いになっていることと3つの部分の幅が狭くなっていることを確認させる。</p> <p>・「街」を空書し、書き順を確かめてから、試書させる。</p> <p>・「働」の特徴を参考に気づいたことを赤ペンで試書に書き込み、課題意識を高める。</p> <p>・動画映像を見ながら、筆使いを確かめさせることで、基準理解を視覚的にさせたい。</p> <p>・水書板を用いて、右上はらいの書き方を理解させたい。</p>	<p>・紙板書「働」「人」「重」「力」 ・小さな手本</p> <p>・半紙</p> <p>・拡大手本 ・教科書</p> <p>・テレビ ・CD-ROM ・赤ペン ・水書板</p> <p>◎横幅を狭くすることで文字が整えて書くことができることを理解しているか。また、右払いの書き方を理解しているか。</p>
できる 20	<p>5 練習・批正をする。</p>	<p>・4種類の練習用紙を準備する。</p> <p>練習用紙① 3つの部分の幅1 練習用紙② 3つの部分の幅2 練習用紙③ 右上払い1 練習用紙④ 右上払い2</p>	<p>・練習用紙4枚</p>
まとめる・生かす 10	<p>6 まとめ書きをする。</p> <p>7 評価・反省をする。 ・自分の試書とまとめ書きを比較させてよくなったところを確かめる。(自己評価) ・お互いの作品を見て、よいところを話し合う。(相互評価)</p>	<p>・2つの基準を確認してからまとめ書きをさせる。</p> <p>・本時の基準に沿って自己評価、相互評価をさせる。</p>	<p>・教科書 ・半紙</p> <p>◎基準に気をつけて「街」を書くことができたか。</p> <p>・評価カード</p>